

市民からの意見聴取概要

1. 開催経過と今後の予定

開催日	団体名等		意見聴取等のテーマ
5月31日	第1回藤島地域振興懇談会	懇	これから10年のまちづくりについて
7月3日	まちづくり塾	ま	この10年で鶴岡市、藤島地域に大切なもの(こと)
7月5日	第1回農業専門委員会	農	藤島地域の農業振興について
7月23日	第1回藤島地域福祉委員会	福	藤島地域振興計画・地域まちづくり未来事業計画について
7月25日	第2回農業専門委員会	農	藤島地域の農業振興について
7月28日	藤島歴史公園ワークショップ1回目	ワ	歴史公園の利活用について
8月7日	県道改良促進期成同盟会	道	事業案への意見聴取
8月22日	第2回藤島地域振興懇談会		地域振興計画及びまちづくり未来事業(案)について
9月1日	藤島歴史公園ワークショップ2回目		歴史公園の利活用について
9月上旬	J A庄内たがわ青年部		事業案への意見聴取
9月下旬	第3回藤島地域振興懇談会		地域振興計画及びまちづくり未来事業(案)について
9月1日	藤島歴史公園ワークショップ3回目		歴史公園の利活用について

2. 意見聴取の概要

1. 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現		
1	藤島の農業振興策について、農業の有識者を集めた専門委員会を作って検討して欲しい ⇒ 農業専門委員会設置済	懇
2	販売して実感しているが、つや姫は、すごいブランドに成長している、本当にこの米があるから販売でき経営が成り立っていると感じる。全国ブランドのつや姫をうまく活用して「つや姫特区」「つや姫ロード」などを作ってPRしてはどうか	懇
3	地域の若者と高校生をつなぐような事業ができないか	懇

4	枝豆作付 100ha は、JA の枝豆部会の現状から、厳しいのではないか。	農
5	枝豆収穫のための機械あるいは組織の育成が必要（大豆受託組合を例に共同作業で収穫する体制づくり）	農
6	枝豆に取り組む人がどれくらいいるか。味・量・質が良くても単価が安い。	農
7	「ただちゃ豆」と言えない鶴岡以外の地域でブランド化できるのか。	農
8	麦やデントコーンなど飼料になるものはどうか、畜産農家に供給して藤島豚のブランド化するなどの流れをつくる。	農
9	すべての農産物に共通することだが、販売力が弱い。	農
10	若い人が就農できるようにモデル事業に取り組めないか。	農
11	70 歳以上の就業者が 4 割を超え、これから 10 年で 4 割の労力が減る、これをどう補っていくか。コストのかかるところは行政及び農協等関係機関が協力し進めないと遅れをとるのではないか。	農
12	機械を共有していく仕組みがあれば、ネギや枝豆に取り組みたい。	農
13	就農時のネックは、通年雇用と設備投資である。	農
14	エコ農業の推進は、鶴岡市で有機農業計画をつくり、目標を立てて取り組むべき。	農
15	藤島はやはり米作地帯、米のマーケティングを再検討すべき。	農
16	農産物の加工分野について考えるべき、原材料で売るのではなく付加価値をつけて売るべき（土地柄、人柄、栽培方法など物語をつくりながら PR）	農
17	全国的な人気の「つや姫」を農業体験や観光につなげて発信してはどうか。	農
18	藤島地域からコンクール受賞者を増やして評価を受けるのも盛り上がる。	農
19	農業体験希望者を農作業と並行して受け入れるのは対応が難しいので、観光につれていく部分を助けてもらえればもっと需要はあると思う	農
20	パルシステムは、組合員と生産者の交流で、収穫体験、とりたての朝食、その後に観光など。	農
21	作付面積は決まっているので、作ったものを現金にかえること、いかに単価をあげて販売するかが大事。	農
22	観光コースとして、つや姫発祥地、水田農業試験場も加えて消費者にみていただきたい。	農
23	耕作面積の増と農業従事者が減っている中で、大豆から備蓄米や飼料用米にシフトしている。枝豆をやろうという意識をどう変えていくか。	農
24	枝豆の選果場を設置し集荷となると品質が低下すると思う。食味より量に走っていく懸念。それぞれが責任をもってそれぞれのブランドで売ることの良いものが維持できる。	農

25	藤島地域の農業の特徴は、有機栽培を含めて特色のある経営者がいっぱいいること。藤島のブランド化、藤島の農業振興の戦略を考えた場合、いかにその個々を伸ばしていくか、その集合体として藤島のブランド化を考えていかないと。	農
26	良いものを作るのは当然であり、販売するのも車の両輪で重要、設備投資にお金をかけるのも一つの手であるが、営業努力にもお金をかけるべき、東京藤島会、鶴岡市各地域にある県人会から販売につなげてくれたことに対する手数料を支払うことにすれば、設備投資により恩恵を受ける一部の人だけでなく全体が良くなっていく流れになるのではないか。	農
27	藤島はなかなか一つにまとめられない、昔の園芸特産課で頑張ってきたようにある程度地域限定の取組みであれば、一定の食味もできる気がする。そういうのを試みにやってみる。	農
28	宝探しというか地域の特徴とか、人の活動というか、世の中にアピールできる人の動きはこの藤島地域のなかにもある気がする。鶴岡にも。そういうものを掘り起しそれをどう結び付けて物語を作り、イメージ作り、プロジェクト作り、そして最終的にブランドを作っていく。そのためにはそれなりの技術を持った人でないと難しい。そういう人がいるとすればその人の活用が必要。	農
29	地産地消を通して食文化を継承するとともに食の重要性を発信することで、食への関心を高め郷土愛を育む	ま
30	働きやすい環境の整備、農業継承の支援、そして農家自身の主体的農業経営によって安定した農業基盤を築く。	ま

2. 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

1	歴史公園でヨガのイベントを行いたい、借りやすいシステムを作っていただきたい。	懇
2	ふじの花まつりなどの藤島の三大祭は、他からも人を呼ぶイベントとして重要、計画に盛り込んでほしい。	懇
3	1回目の歴史公園活用ワークショップは現状把握がメインのため意見出しは次回以降となる。	ワ
4	藤島や鶴岡の歴史文化を継承し、活性化を推進していく。	ま

3. 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築

1	免許返納に伴う、バス及びタクシー補助制度の恩恵が得られない地域の支援について検討が必要（もともとバス路線がない所、バス路線があっても使い勝手が悪い所）	懇
2	鶴岡清川線のバスは休日運休、公共交通と言えるのか。デマンドタクシーは藤島駅までとなっており、タクシー協会などとの協議が必要である。	福

3	三川や余目にもいける、地域の要望を取り入れられるよう、公共交通はどうあるべきか、といった視点が必要。	福
4	デマンドは各町内会の負担があってできること、庁舎がもう少し力を入れて欲しい。	福
5	高齢者などの避難援助を誰がどうするかなどの災害弱者の対策が遅れているようだ。これまで一人暮らしの高齢者を中心に考えていたが、サービス業の従事割合をみると家族は土日働いており一人での時間帯があるのではないかという考え方で取り組んでいきたい。	福
6	公共交通空白地域となっている長沼・八栄島地区の交通弱者対策として、地域公共交通の導入について検討して欲しい。	懇
7	町時代にやっていた新入学児へのランドセル無償配布はなぜできないのか。こどもが少なくなっているので、全市的に広げてもいいのでは。それで鶴岡市へ住む人が増えるのであれば、よい宣伝になる。	懇
8	着眼点4「若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築」は大切な視点。ぜひ計画に盛り込んだ施策の構築を望む。	懇
9	自然環境による問題を解消するとともに、地域の自然環境について学び、みんなが自然に親しむすみよいまちをつくる。	ま
10	移住定住支援施策を推進し、人材の確保・育成に努め、人口減少問題に対応する。	ま
11	人と人とのつながることのできる地域のふれあいの場を創出する。	ま
12	地域社会の実状に合わせ、ネットワーク化・コンパクト化を図る。	ま
13	市民が身近に利用できるよう、既存の施設の利活用を促進する。	ま